

☆進路だよりは今すぐすべて目を通すとともに、必ず保護者の方に見てもらいましょう。

# 進路だより

2018年4月13日(金)  
貝塚市立第二中学校  
NO3

進路に関係したお話

## 「大工の仕事」

「進路」というと、多くのみなさんは「高校進学」のことを思い浮かべることでしょう。けれども、「高校進学」の後も、結局「仕事」につながってきます。ですから、二中では、2年生で仕事体験学習に取り組んでいます。今回は「仕事」についてのお話を紹介します。

### ●大工さんの仕事

……今回紹介するのは高木信夫さんという27歳の「大工さん」のお話です。大工さんといえば、だいたい木を使って家を作りますが、その木のあつかいがとても難しいのだそうです。……

木は生きています。30坪(100m<sup>2</sup>=たたみ約50畳)くらいの家を建てるには、柱はだいたい70本くらい使いますが、その1本1本の性格がみな違います。木の種類が違えば性質も違うのは当然ですが、同じ種類の木でも、1本として同じものはありません。みんなそれぞれ表情を持っています。

木は、乾燥すれば縮みます。その縮みを計算して、どの場所にどの木を使うかを考えなければなりません。また、木には裏、表があります。中心に近い方が裏で、外側が表。それを逆に使ってしまうと、家ができてから、ゆがみが出てきます。

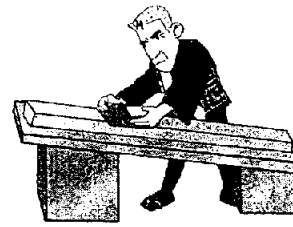
どの木を、どこに使うかを「墨つけ」といいます。つまり、1本1本の木に番号をつけたり、切ったり穴をあけたりする場所を墨で書くから、こう言われているのですが、この仕事は親方がやります。親方は木の肌ざわりと重さだけで、この木はどのくらいしけているか(湿っているか)わかると言います。

この種類の木でこのくらいの長さなら、重さはどのくらいか、経験で知っているのです。これは少し重いからまだ湿っている。ならば、乾燥したらどのくらい縮むか、どこにひび割れが入るかと計算して、どこにどういうふうにするかを考え、決めていく。

大工は木を切ったり打ち付けたりするだけが仕事ではなく、この「墨つけ」ができるようになって初めて一人前です。「墨つけ」ができるようになるまでには、まず10年はかかるといわれています。

今は、のみ(木を掘る道具)やかなづち、のこぎりを使わず、ほとんどの作業を機械でやりますが、親方の「若いうちから機械しか使ったことがないというのは、上達しない。」という方針で、道具の使い方を教わりました。

オレは  
はたらくぞ!!



使い方と同時に教わったのが、「かな」や「のみ」の刃のときかた。見ていると簡単そうですが、やってみると実に難しい。平らに砥がなければいけないのですが、一定の角度を守って砥げなくて、かえって刃先が丸くなってしまふ。まっすぐやっているつもりでも、かたよってしまうんです。

刃をとぐのは毎日ですから大変。冬は水が冷たかったですね。3年たつてある程度とげようになりました。今は機械で削ることが多いですが、細かいところは昔ながらの「かな」や「のみ」でなければできません。

### ●俺の力で建てたんだ!

最初の一年は、ただ親方のいう通りに動いているだけで、無我夢中でした。家を建てたという実感はなかった。しかし、技術を身につけ、自分でも考えて仕事ができるようになると、完成した時、「この家はおれの力で建てたんだ」と思うと、何ともいえずいい気分でした。これは大工じゃないと味わえない気分です。

その上、お客さんにほめてもらえばこんなうれしいことはありません。建てた後も、お客さんとの付き合いが続くこともあります。あるお客さんは、良く作ってくれたと本当に喜んでくれて、家に来た人に自慢しているそうです。それを聞くと、こちらまでうれしくなってくる。今でも「遊びに来なさい。」と言って、家でごちそうしてくれたり、私の子どものためにおみやげまでくれるんです。

将来はどんな家の注文にも応じられる腕を持ちたいと思っています。

(高校出版「月刊高校生」「私が選んだ仕事」の要約です)

### ●おわりに

さて、大工さんの仕事、いかがでしたか? 一本一本の木の個性を生かしながら、一つの家を作っていく大工さん。自分の作った家は長く残るし、その家で暮らす人たちの笑顔が想像されます。この話を読んで、私は自分の中学時代からの友人を思い出しました。その友人は、大工さんではなく、家の設計士になって、たくさんの家を設計しています。私の家の設計をしてくれたこともありました。(事情があって、実際にはその家は作ってもらわなかったのですが。)その設計図では、台所仕事や洗濯をするのにあまり歩き回らなくてもいいように流し台と洗濯場と勝手口が一直線になるように配置されていたり、どの部屋にもよく日があたるように工夫されていたり、とても感心しました。その友人も、この大工さんと同じように、家を作り、人に住んでもらう喜びを味わっているんだなあと、うらやましくなった記憶があります。また、昔担任をした生徒の一人は、中学のころから大工になりたいと言っていて、中学を卒業したしばらくあと大工さんになり、頑張っています。この間も建築現場で彼の姿を見たことがあります。家を作る仕事って、すごく楽しそうに思えてきます。みんなはどうですか?(進路担当 亀井)

